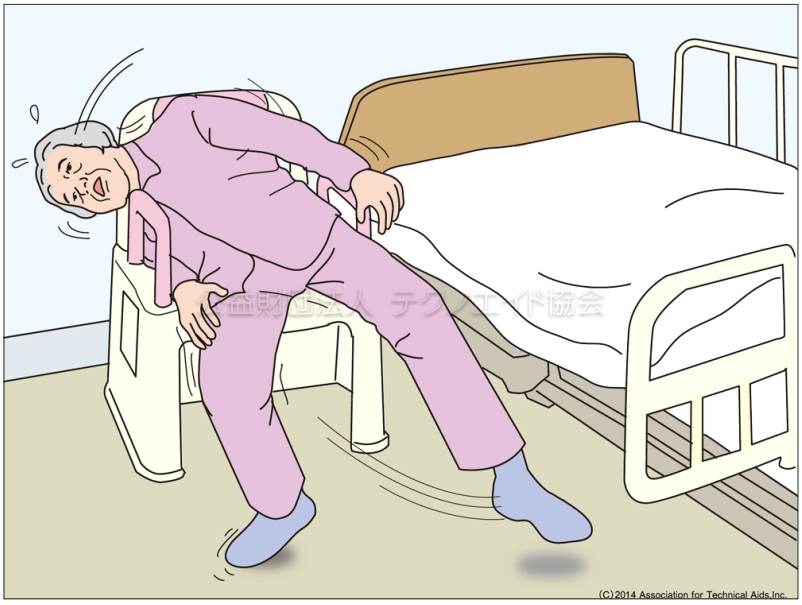
福祉用具ヒヤリハット情報

Case：304

ポータブルトイレからベッドに移ろうとした際に転倒し、アームサポートと背もたれの間の隙間に首を挟み、重大事故に遭いそうになる

場面の説明

ポータブルトイレをベッドから離して設置しており、移動用手すりが届かなかった。普段はアームサポートを握って立ち上がれるが、足が滑った拍子に握っていた手も外れ、後方に転倒し首を挟んでしまった



利用シーン	移乗 排泄
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	腰掛便座
分類コード(CCTA95)	091203(ポータブルトイレ)
介護テクノロジー	―
二次元バーコード	

解説

転倒の状況は不明ですが、なんらかの拍子で首が挟まってしまったものと考えられます。隙間に関連する事故の報告は多く、ポータブルトイレに限らず、普段から危険な隙間の把握に努め、タオルなどを詰めておくなどの対策を検討しましょう。

参考要因

人：まさか、こんな隙間に首が挟まりこむとは考えもしなかった
人：転倒しやすい虚弱な状態で、ひとりで排泄動作をしていた
モノ：首が挟まれやすい隙間があった
環境：手すり等安全な移乗動作ができる環境になっていなかった

Copyright 2000-2012 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.